



県庁に着いてまず気づくのが旧館のライティング。耐震改修が終わり「県庁CLASS」な

旧館が青に染まる

昨年、佐賀県庁がアートに変わる――。昨

年、予想を大幅に上回る約5万人を集め、新しい佐賀の夜景の名所となった県庁展望ホールの夜景プロ

ジェクション「エンパージュ」[SAGA Night of Light by NAKED]。今年はさらにパワーアップ。「アート県庁プ

ロジェクト」というタイトルのもと「星空のすいぞくかん」スタート

をテーマに展示作品数を拡大し、同展望ホールの新

愛称「SAGA360」の通り、360度で佐賀の夜景を

楽しめるよう進化した。入場料はもちろん無料!! 佐賀

の新名所に何度も足を運ぼう。

去年は目標の約4倍来場

「アート県庁プロジェクト」とは、人が作り出したものを語源とする「アート」と、人の営みを守る行政機関である「県庁」が、「人」という

ワードで繋ぎ、混ざり合い新たな価値を生み出すプロジェクト。

昨年の夜景プロジェクションマッピングには

7月18日から今年3月31日までに、当初目標

1万3千人の約4倍となる約4万7千人が来場

した。アンケートによると来場者の3割近くが

県外から。新たな観光資源として大きな成果を

上げた。さらにパワーアップした今年は来年3

月末までに昨年以上の来場が期待されている。



ど意欲的に公開されている歴史ある建物がある。シックなブルーに包まれている。上品な配色で好感が持てる。ライティングは日没後から午後10時10分まで。また、サガン鳥栖のホームゲームがある日はチームカラーのピンクとブルーになり、サポーターの気持ちを盛り上げるといふ粋な試みだ。

新館の展望ホール行きエレベータを降り、ホワイエに向かうと、県庁と夜の明かりを海の生き物が包み込む映像と「星空のすいぞくかん」というタイトルが目に飛び込んでくる。床には雲海や魚群が映し出されている。星空の世界を歩いているような不思議な没入感が期待が高まる。隣には大きな本型のスクリーンがあり、館内MAPや、アーティストの紹介など、今回のイベントの情報を教えてくれる。



まずは南側へ向かう。作品タイトルは「スターライト・ジャーニー」。有明の海から星空の海へ。様々な海の生き物が舞い泳ぐ趣向だ。夜景越しにかつての町並みが映し出された後、船が有明海へ漕ぎ出す。イルカに見守られながら空に飛び出す船。イカやエビなど魚群がまるで星雲のように夜空にきらめく。星空のトンネルを抜けると最後はスナメリが登場。パブリックが弾

10分間 星空の旅

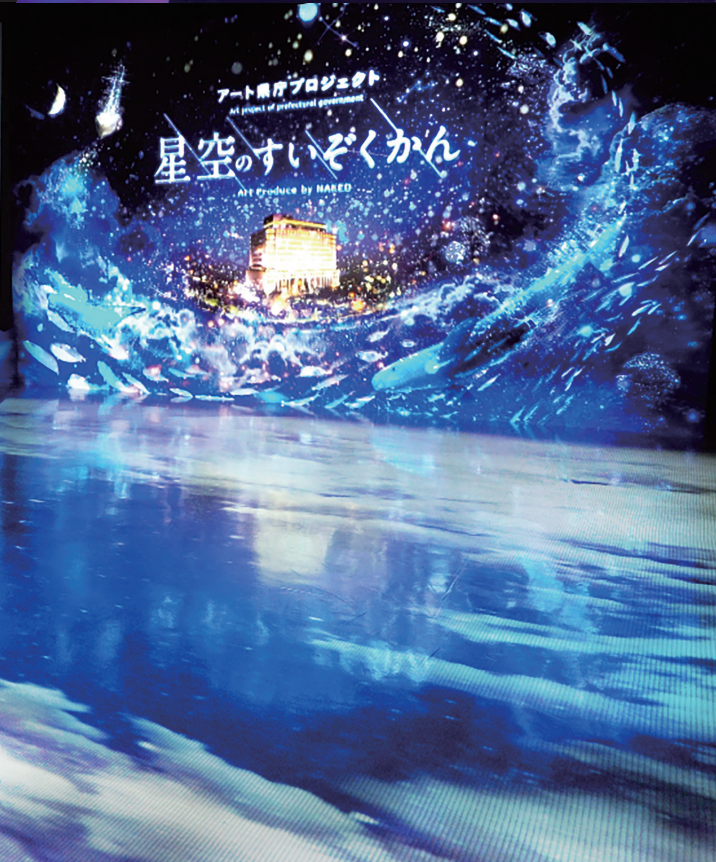
去年に続き、今回のプロジェクトの総合プロデューサーを務めるのは株式会社ネイキッド。プロジェクトの総演出を手がけたイベントやショーは通算150万人以上を動員している。日本を代表するクリエイティブカンパニーだ。

技術や美術造作、演出を組み合わせ、光を使った空間の総合演出を手がけており、現在、自社が企画・演出・制作を手がけたイベントやショーは通算150万人以上を動員している。日本を代表するクリエイティブカンパニーだ。



県庁を遊ぼう！

アート県庁プロジェクト「星空のすいぞくかん」スタート





さがオトナ飯

「わがまま！気まま！旅気分」

モデル、タレントとして活躍する鈴木ちなみさんが、初めての佐賀の旅。「星空のすいぞくかん」にも訪れています。お楽しみに！

放送予定日

BS フジ 9月9日(土) 6:00～6:55
サガテレビ 9月15日(金) 19:00～19:57
九州・沖縄のフジテレビ系列各局でも放送！(放送日未定)



開催概要

〈時間〉
4月～9月 20:00～22:00
10月～3月 18:30～22:00
※9月からは日曜・祝日は21:00まで
〈料金〉無料
〈場所〉
佐賀県庁 SAGA360(展望ホール)
佐賀市城内1丁目1-59
JR佐賀駅 徒歩20分 バス停「県庁前」徒歩1分
※車椅子やベビーカーでご来場のお客様は正面玄関からお入りいただけます
〈問い合わせ先〉
佐賀県 文化・スポーツ交流局 観光課
☎0952-25-7386
※土日・祝日は0952-24-2111

クティブな作品だ。
最後には「ミュージアムショップ」
「SAGA360ショップ」が新たにオープン。星空のすいぞくかんのクリアファイルやヤマガミユキヒロさんのポストカードなどが販売されている。また、ショップの横にはミヤザキケンスケさんやおぼしんたろうさんの作品を缶バッジにしたカプセルトイも販売されている。
昨年あったグルメクーポンに代わり、今年には「さがオトナ飯」という冊子を販売。定価1000円が展望ホールでのみ900円で購入できる。佐賀市内の97店舗が掲載されており、ビール1杯無料や500円オフなどいろんなサービスが楽しめる。対象期間は来年7月31日まで。「星空のすいぞくかん」を満喫した後は、佐賀の街を楽しもう!!

「月と楼門」と「光景―有田」の2作品。日の出から夜景まで定点観測された佐賀の風土が繊細に表現されている。
最初は白いキャンバスに手書きの映像を写していると思ったが、何かおかしい。画面全体が暗くなっても、建物や車のラインがきちんと見えるのだ。通常の映像であれば、画面が暗くなると線は見えづらくなる。どうしてだろう？
キャンバスをよくよく見て驚いた。2mを超える大きなキャンバスに、非常に精密な線で風景が鉛筆で描かれているのだ。今年、佐賀県立美術館で開催されて大きな話題となった池田学さんの作品に並ぶくらい超細密な描写だ。
ヤマガミユキヒロさんは1976年、大阪府生まれ。展示タイトルである「光景」には、本来の風景や景色などの意味に加え「光の景色」という意味を込めているという。超細密な絵が描かれたキャンバスの上に映像を映し出すことで、光や時間を描いている。「キャンバス・プロジェクト」 という独自の手法だ。

住民の息遣い伝わる
昨年までは南側のみだったが、今年は規模を拡大。西側と北側にも面白いプログラムが新設された。西側にはアーティスト・ヤマガミユキヒロさんによる「佐賀の光景」を特別展示している。出品されているのは「月と楼門」と「光景―有田」の2作品。日の出から夜景まで定点観測された佐賀の風土が繊細に表現されている。
最初は白いキャンバスに手書きの映像を写していると思ったが、何かおかしい。画面全体が暗くなっても、建物や車のラインがきちんと見えるのだ。通常の映像であれば、画面が暗くなると線は見えづらくなる。どうしてだろう？
キャンバスをよくよく見て驚いた。2mを超える大きなキャンバスに、非常に精密な線で風景が鉛筆で描かれているのだ。今年、佐賀県立美術館で開催されて大きな話題となった池田学さんの作品に並ぶくらい超細密な描写だ。
ヤマガミユキヒロさんは1976年、大阪府生まれ。展示タイトルである「光景」には、本来の風景や景色などの意味に加え「光の景色」という意味を込めているという。超細密な絵が描かれたキャンバスの上に映像を映し出すことで、光や時間を描いている。「キャンバス・プロジェクト」 という独自の手法だ。

魚群のトンネル

北側にはネイキッドによる2作品を展示。「アクアリウム・トンネル」は歩く人の動きに合わせてキラキラとした魚群が空間全体に広がる。窓だけでなく天井も床も魚の群れに覆われており、まるで魚のトンネルだ。その中をくぐり抜けると、なんだか魚さんたちと分かり合えるような気持ちになるから不思議だ。「スターライト・フィッシュ」は窓面の星空に触れると、宝石のような海の生き物が勢いよく現れるインタラクティブな作品だ。

「月と楼門」は2015年に制作した作品。楼門の背後にそびえる山と広がる空に焦点を当てている。山の端から日が上り、青空に雲が流れる。そして濃紺の夜空には上弦の月が上がっていて、楼門はライトアップされ朱に染まっている。
「光景―有田」は昨年、約1年間リサーチして制作した作品。建物が密集した独特の町並みを持つ有田町を、陶山神社から見下ろした鳥瞰図の構図で描いている。横3mの大きなキャンバスに細密に描かれた鉛筆画を見るだけのため息がでる。瓦一枚一枚を丁寧に積み重ねている。その上に流れる映像もすごい。朝から夜、そして次の朝まで。流れる雲はもちろん、森に当たった日光のスポットライトが少しずつ移動したり、夕方になると街中を走る車のライトがほのかに灯ったり。そこに住む人の生活の息遣いが伝わって来るような作品だ。
鉛筆画というアナログ手法に実際の映像をプロジェクトするという新しい技術を組み合わせた試み。映像を拡大するだけでは決してできない、奥行きのある表現は本当に必見だ。

今年イチオシのプロジェクト



チームラボ代表
猪子寿之さん

「この場所でずっとやりたかった、森」と庭を活かした大展覧会が出来て本当に嬉しいです。チームラボは世界的デザインサイト「designboom」の「TOP 10 art exhibitions」に、2015年は「チームラボ 踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地」で展示した「Floating Flower Garden – 花と我と同根、庭と我と一体」が、昨年はお台場で行った「DMM. プラネット Art by teamLab」が選ばれています。今年はこの御船山のプロジェクトで3年連続選出を狙っています。世界中から注目を集めるプロジェクトなので、武雄から海外へ発信して行きたい。

この展覧会の宣伝のため、佐賀での放送に合わせ「開運！なんでも鑑定団」に出場しました（笑）。何度来ても面白い”新しい形の美術館”が出来たと思っています。佐賀のみなさんもたくさん足を運んでください！！

進取の気性 現代に



御船山楽園代表
小原嘉久さん

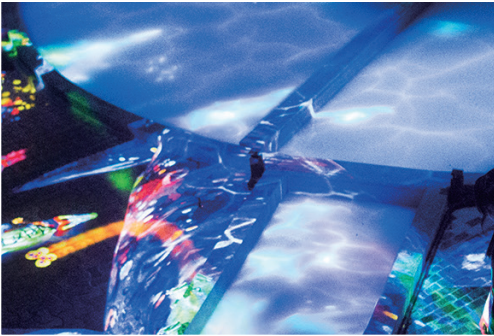
御船山楽園は今から約170年前、江戸末期の武雄領主・鍋島茂義によって作られました。茂義は鎖国時代にあって積極的に蘭学を導入し、西洋式大砲や蒸気船の製造に成功するなど、いち早く西洋の軍事・科学技術に着目していました。現代に生きていたら、単なるライトアップじゃなく、先端テクノロジーを駆使した表現にチャレンジするのではないのでしょうか。

15万坪を誇る壮大な空間は、日本だけではなく世界中の方々を感動させる力を持っていると思います。ぜひたくさんの方々に楽しんで頂きたいです。

▼開園時間
8月15日～9月9日
第一入口 19:30～22:30
第二入口 19:00～22:30
9月10日～9月30日
第一入口 19:00～22:30
第二入口 18:30～22:30
10月1日～10月9日
第一入口 18:30～22:30
第二入口 18:00～22:30

▼会場
御船山楽園
佐賀県武雄市武雄町大字武雄4100

▼料金
大人 1600円／中高生 1200円／小学生 800円／未就学児無料
<https://www.teamlab-jp/e/mifuneyama2017/>



資生堂 presents チームラボかみさまがすまう森のアート展

14作品 自然と対話 するひととき



写真提供 チームラボ



おすすめは第一入口より30分早く開門される第二入口を利用すること。日が落ちてすぐの、ほのかに明るい庭園を楽しむながら小道を上ると、茅ぶきの四阿が見えてくる。今回のプロジェクトを協賛している資生堂とのコラボレーション作品「WASO Tea House – 小さきものの中に無限の宇宙に咲く花々」だ。「WASO」とは資生堂が世界展開する新スキンケアラインのこと。「和」と「想」からネーミングされており、自然からくる美しさ、をテーマに、大豆粉、びわの葉、はちみつ、白きくらげ、人参という和の自然素材を使い、自分らしいナチュラルな美しさを目指している「日本や海外の若い世代（ミレニアル世代）をターゲットに開発された（日本発売は10月1日予定）。

茶碗に咲く花

四阿の軽やかな幕をくぐり、席に付くと目の前にガラスの茶碗が運ばれる。お茶が

注ぎ込まれると、ふっと茶碗の中に花が生まれ咲き始める。現れる花は「WASO」で実際に使用されている素材をモチーフにしているという。茶碗を動かすと花びらは鮮やかに散り、テーブルの上を舞い踊り、やがて消える。その瞬間のえも言われぬ美しさ。お茶を飲み干すと、もう花は姿を現さない。客の振る舞いに即して映像が変化していく。これを「一期一会」というのだろう。行列になる場合が多いので、オープンと同時に体験しておきたい。お茶は無料。坂を上がると御船山の山裾に光のカーペットが広がる。「生命は連続する光」ツツジ谷だ。春の御船山の代名詞である5万株、20万本のツツジの足元には多くの光源が用意され、まるで生き物が呼吸するようなリズムで光の波が広がっていく。「夏桜と夏もみじの呼応する森」を抜け、さらに登ると暗闇の中に「かみさまの御前なる岩に憑依する滝」が現れる。光の粒がまるで流れるようにスクリーンを落ち、巨石の岩肌を伝っ

ていく。なんだかヒンヤリしてくるから不思議だ。

動と静 佇む巨岩

再びツツジ山の間を抜けると、苔むす巨石の表面に色鮮やかな花々が浮かんでいる。「増殖する生命の巨石」だ。いろんな花々が咲いては散り枯れて消える。生々流転の様子を眺めていると、巨石の肌には小さな植物がそっと育っていることに気づく。この場所が長い時間をかけて作られ、今も少しずつ変化していることに気づかされる。さらに奥へと進むと、岩の上に生えているもみじがライトアップされていた。眺めていると、岩肌に黒い影が動き始める。徐々に影は「円」の形になっていく。「岩割もみじと円相」という作品だが、先ほどの色鮮やかな巨石と対称的なモノクロの映像。精神の不変性。静けさが漂っている。さらに先に進むと巨木に囲まれた空間にごろんと置かれた20個の岩が光に照らされている。「忘却の岩群」。近づく光が強くなり、重低音に腹の底から揺さぶられる。ちょっとスベシーなイメージ。未知の存在を感じる不思議な空間だ。

桜並木の森まで戻る。山道を登っていくと木立が縦長に切り取られてライトアップされていた。周りが真っ暗なので、先に進む人たちがまるで画面の中に入っていくような錯覚を覚える。不思議な浮遊感を感じながら、道を下っていくと岩壁に大きな墨跡が現れてくる。「岩壁の空書連続する生命 – 五百羅漢」だ。その下にある洞窟の岩肌には約1300年前の名僧・行基が刻んだとされる五百羅漢（仏教における聖者）がある。奥岩には磨崖仏があり、素朴な姿に心がほころぶ。引き返し山道を登ると、先ほどのライトアップの場所の木立の上部に光が当たっていることに気づく。さっきは足元ばかり見て歩いていたので分からなかった。近づいて見上げるとまるで井戸の底にいろような気持ちになる。

描いた生き物 生態系に

桜並木を下ると右手に古びた建物が見えてくる。使われなくなった大浴場を舞台にした作品「グラフィティネイチャー – 廃墟の湯屋に住む生き物たち」だ。来場者が思い思いに描いた生き物が旧大浴場の中を動き回る。他の生き物を食べたり、食べられたり。まるで生態系のように、複雑で意味深い物語が紡がれる。子ども連れの方にオススメだ。

道を一気に下って最後に見るのは大きな池が舞台の作品「小舟と共に踊る鯉」によって描かれる水面のドローイングだ。静かな水面を見つめていると、どこからともなく音楽が聞こえてくる。向こう岸から小舟がゆっくり近づいてくる。舳先が起こす小さな波紋に反応するように色とりどりの鯉が現れる。その涼やかで優雅な泳ぎに癒される。数分間続く幻想的な光景。最後は鯉たちが多彩な線となって水上を埋め尽くす!! クライマックスまで見逃さないほしい。

デジタルアートを通して見えてくる御船山楽園の自然は、日常の奥底にある時間や空間、身体、そして歴史の捉え方を改めて考えさせてくれた。しばらくじっと見ていると、頭にいろんな思いが浮かんでくる。できれば1時間以上を掛けて夜の森を楽しんでほしい。9月30日までの土日祝日は武雄温泉駅や武雄温泉楼門、御船山楽園などを結ぶ無料周遊バスが運行されている。森めぐりで一汗かいたら、温泉に浸って余韻に浸るのもオススメだ。詳しくは武雄市観光協会ホームページ（<http://www.takeo-ky-net/season/summer.htm>）を。